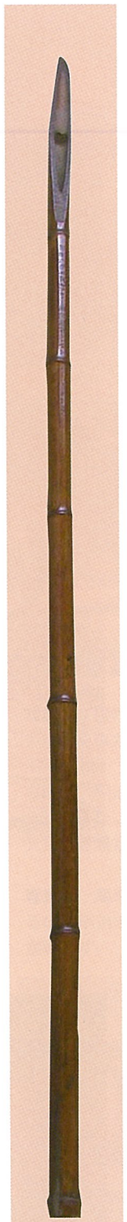

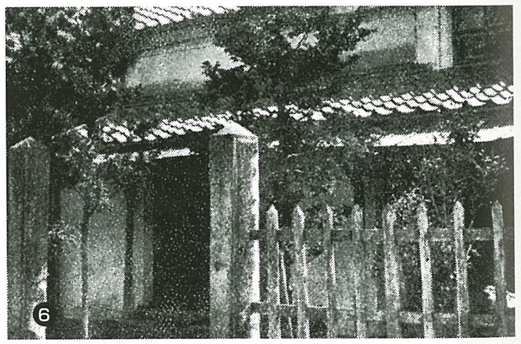

写真④⑦　「筑前竹槍一揆」に使用された竹槍。長さ148cm、直径2.8cm。一揆の様子をつづった文が刻まれています。

写真⑤　深江の日巡家に残る桜。日巡家は、近世後期の豊前中津藩の儒学者であり、郷士（ごうし）でもありました。この桜は、手習所を開設していたときに学生たちが植えたものです。

写真⑥　昭和25年（1950）ごろまであった深江登記所

写真⑧　西町の木下家の井戸。豊臣秀吉が大陸進出のため肥前名護屋（佐賀県唐津市鎮西町）へ向かう途中、深江で茶会が催され、この井戸の水が使われたと伝えられています。

写真⑨　唐津市にある唐津藩主寺沢志摩守広高の墓。寺沢氏は慶長4年（1599）にこの地域の領主となり、河川改修や街道、海岸線の植林、土地改良などに多くの業績を残しました。『島原の乱』の責任を問われ、2代目藩主寺沢兵庫守堅高は所領を没収されました。

写真①　深江神社の無額の鳥居。名護屋城に陣を構えていた豊臣秀吉が深江に滞在中、世継ぎの誕生を願って、筑前国領主小早川隆景に命じて社殿を再建。この石の鳥居は隆景が献納したもので、額がないため『無額の鳥居』と呼ばれています。

写真②③　野村望東尼が流罪になった志摩町の姫島と獄舎。幕末、勤王の志士たちをかくまったために流罪となり、その救出には福井や鹿家などの人々が活躍しました。

年表

七六八（神護景雲二）
怡土城ができる

七九四（延暦一三）
平安京に都を移す

一〇一九（寛仁三）
刀伊の入寇で糸島沿岸も攻撃を受ける

一一九二（建久三）
源頼朝が征夷大将軍になる

一二二一（承久三）
承久の乱

一二七四（文永一一）
文永の役（元寇が襲来する）

一二八一（弘安四）
弘安の役（元寇が襲来する）

一三三四（建武元）
建武の新政が始まる

一三三六（建武三）
南北朝の対立が始まる

一三九二（明徳三）
南北朝が統一される

一四四一（嘉吉元）
原田弘種、大内氏に属して高祖城を守る

一四六七（応仁元）
応仁・文明の乱

一五四三（天文一二）
鉄砲が伝わる

一五四九（天文一八）
キリスト教が伝わる

一五八二（天正一〇）
本能寺の変

一五八七（天正一五）
小早川隆景、筑前一国・筑後三郡・肥前一郡の領主となる
秀吉、筑前国筥崎で九州の国分けを行う

一五九一（天正一九）
豊臣秀吉、関白になる
豊臣秀吉、肥前名護屋城の築城を命じる
小早川隆景、博多と怡土郡西部を交換する

一五九二（文禄元）
文禄の役（秀吉の朝鮮出兵）

一五九七（慶長二）
慶長の役（秀吉の朝鮮出兵）

一五九九（慶長四）
寺沢志摩守広高、筑前国怡土郡二万石の領主となる

一六〇〇（慶長五）
関ヶ原の戦い
黒田長政、筑前を与えられる
寺沢志摩守広高、天草四万石を加増される

一六〇一（慶長六）
福岡城の築城が始まる